

## 本徳寺廟所墓参のあり方について

真宗の墓所は、先祖・先達によって受け継がれたきた真実への確信「信心」を抛り所として、ご先祖と共に仏恩報謝を行わずの厳肅な宗教的聖地であります。従って、本廟所墓地には三百年來、「ご本尊」と「名号塔」を中心にご安置し、ここで、播州一円の真宗門信徒の皆さんが、礼拝・讃嘆して参りました。

このような歴史的伝統を有する仏教的聖地で、先に生ぜんものは後を導き、後に生ぜんものは先を訪う（とぶらう）のとおり、連綿と「ご法義の相続」がなされて来たのであります。

生きとし逝けるもの一切の有情になげかけられた「本願」（阿弥陀如来の衆生済度の決意）のなかに、自らの「いのち」のよって帰する所以を確かに信知する宗教的実践の「場」でもあります。（ご法義の理解はお寺の行事に参加して聴聞することから始まるのは言うまでもありません。）

以上の廟堂建立の趣旨からも分かるように、真宗のお墓は、亡霊を祭る場所ではありません。亡くなった人々は「阿弥陀仏の本願」によって、み仏の国土に生まれ、いろいろな世俗的な迷妄に捕らわれてしか生きていられない我々に「真実の境涯」を伝えようと終始還相しておられるのです。

従って、生きている我々の利益を目当てに、ご先祖様を供養するがごときは本末転倒も甚だしき限りで、墓参は亡き人への供養をして、冥福を祈ったりするのでもありません。亡き人への追慕の念を機縁にして「南無阿弥陀仏のお慈悲」に合掌することでありませぬ。

### <浄土真宗の宗風にそぐわない建墓または保安上問題のある墓石>

以上述べさせて頂いた廟所参詣の趣旨から、浄土真宗の宗風にそぐわない例を簡潔な理由をつけて、以下箇条書きにいたしますので、ご理解を頂いた上で遵守して下さい。

#### 1. 五輪塔・水子地蔵・観音像あるいは尖塔形の墓石の新規建造は出来ません。

これらの構造物は重心が高く安定性に欠けるため、拡張墓地内では建造出来ません。

上記のように真宗の信仰様式は、現世利益の供養を必要としませぬ。また、厳格な仏供養はそう簡単に達成できるものではありません。

#### 2. 塔婆立てや水塔婆は使用出来ません。

（塔婆は古代の埋葬に使用された遺体の魂を封じ込める柵が後代の五輪塔供養と習合して出来たものです。）

#### 3. 墓相・占いによる吉相墓はご遠慮下さい。

（墓相・占いは全く仏教とは無縁で、むしろ宗教的な主体性の自覚を麻痺させるものです）

当廟所墓地の場合、南向きが一般的です。しかし、地形の制約上無理な場合はこの限りではありません。石質は靱性と耐水性の優れたものを選んで下さい。色・形は個人的な嗜好の問題ですが、宗教的雰囲気尊重して下さい。）

#### 4. 「梵字」の刻字は原則として用いませぬ。

（梵字は専門家を除いて、正確な筆跡あるいはその意味が不明瞭でありますので、一般には呪文・呪術に墮し易く、我々にとっては仏教本来の自覚教に障害をもつ傾向にあります）

どうしても刻字する場合は必ず梵字専門家の十分な指導を仰いで下さい。ただし、阿弥陀仏以外の種字は使用出来ませぬ。

#### 5. 「供養」「菩提」の刻字はご遠慮下さい。

（真宗の宗風では、現世の利益が目的の供養をしたり、菩提を弔う目的での建立は適当ではありません。）

#### 6. 「霊位」「各霊」「諸霊」「霊標」「英霊」「祖霊」の刻字はご遠慮下さい。

（真宗では浄土往生を本義とするため往生人は仏・菩薩です。墓石には「法名」（通例「釈」をいれて三文字のみ）を刻字します。現行流布している「霊」の概念とは無縁のものです）

#### 7. 「吉日」「吉祥日」の刻字は必要ありません。

（日に良い悪いはありません、何かの理由付けがなければ不安になる人間の心理です。「霊」にしても「吉相」にしても、問題は建立しようとする本人に問題があるようです。正しい信心の世界は、これらの人間の迷いの問題を根底から解決してくれるものです。）